

< 2019年 11月 >

古賀 順子

「アロイ社の『棧橋』完成」

11月に入りパリは雨が続けている。セーヌ川も少しずつではあるが、確実に水位が上がっている。昨年2月セーヌ川が増水し、コンクリート船「ルイズ・カトリーヌ号」が沈んだ事故については「パリ通信」でもお伝えした。1929年ル・コルビュジエが救世軍の依頼を受けて、ホームレスや貧しい人々を収容する施設に改造した「浮かぶ避難所(アジュール・フロタン)」である。

事故からまもなく2年。年を越すとパリの降雨量に加えて、上流での雨や雪解け水でセーヌ川は増水し、沈んだ船の浮上工事にブレーキがかかる。水が引く春まで待たなければならなくなる。長く水につかっままの船体鉄筋コンクリートの状態が心配だ。一日も早く浮上させたいのは関係者一同の思いである。12月中に引き揚げ工事ができるかが勝負だ。

船の所有者は「ルイズ・カトリーヌ簡易株式会社」、この会社と「日本建築設計学会」が船の浮上工事に関する協定を結んだのが今年4月。建築家で神戸大学教授でもある遠藤秀平氏の力によって締結に至った。船が沈み、浮上には多額の費用を要し、悲嘆に暮れる船主を援助する補助金を日本で取られたのである。日本からフランスへの補助金であるため、税制上の理由、透明性を鑑み、遠藤秀平氏が代表である「日本建築設計学会」が補助金の窓口となっている。

こうして浮上と修復の資金が準備できた。日仏締結協定も調印された。沈んだ船体の破損状況を診断する潜水調査が5月に行われた。船倉に沈殿している泥の分析が行われた。浮上工事を行う会社も決まった。引き揚げに向けての準備が進んでいる。

それと平行して、各関係機関への許可、許諾の手続きも進めなければならない。「ルイズ・カトリーヌ号」は、2008年船としては初めて「歴史的文化物」に指定された。文化財に指定されることは利点も弱点もある。

文化財として、文化交流を船の事業目的としていることで高額な繫留費を免除されている。セーヌ川のポートハウスには繫留税が課され、「ルイズ・カトリーヌ号」(長さ70m)の大きさには年間約80,000ユーロ(1000万円弱)が必要だ。パリ・オーステルリッツ駅前の一等地の岸であることを考えれば無理もない。その反面、工事や修復に関しては、文化省の許可なしには何もできない。許可を得るためには、工事会社のレポートだけでなく、船建築家、文化財建築家と念には念を入れた審査が行われ、予想以上の時間を必要とされている。文化省だけでなく、コルビュジエ財団への報告と承諾も忘れてはならない。セーヌ河岸の安全性や諸申請は「パリ河川局」(Port Autonome de Paris)の管轄。水路(セーヌ川)は「フランス航路管理局」(水上警察)(Voie Navigable de France)の管轄と複数の公的機関への対応も必須で、迅速な進展が難しいのが現状だ。今月中にこれらの機関への申請をクリアし、12月早々に浮上工事の許可を取れるかが今の最大のポイントである。

そんな状況にあつて、嬉しいニュースもいただいた。日本でアロイ社の棧橋2機が完成した。船が沈む前から寄贈を約束していただいていた「日仏の大きな架け橋」である。株式会社アロイ社は東京港区芝公園に本社を構えるステンレス会社で、西田光作社長が代表。西田社長にはパリにも足を運んでいただき、「アジュール・フロタン事業」プロジェクトの初期から大きな支援を受け、感謝の言葉しかない。山口県光市に加工センターがあり、棧橋2機はそこで製作された。棧橋完成のニュースはNHK山口放送でも紹介され、12月門司港からコンテナに積んで日本を出発。来年1月下旬、ベルギーのアントワープ港に到着。トラックでパリ・オーステルリッツ岸まで運送される予定である。来年1月までに船が浮上し、アロイ社の棧橋2機が「ルイズ・カトリーヌ号」にかかるまでもうひと頑張りだ。

アロイ社への感謝の意を表し、「瀬戸内タイムス」紙の記事(11月8日付け)を紹介させていただきたい。

1997年 ユニセフ・WHOに認定された
赤ちゃんにやさしい病院
梅田病院

瀬戸内タイムス

光市の出来事がよく分かる新聞です 〒743-0011 光市光井七丁目6-3
☎0833-72-2888 FAX 72-8393 Eメールアドレス setouchi@kvision.ne.jp

近代建築の巨匠、ル・コルビュジエが設計

ル・コルビュジエ設計の「浮かぶ避難所」

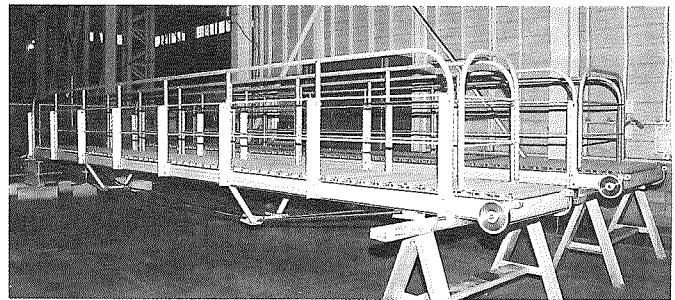
ステンレス製棧橋が完成

(株)アロイ光加工センターが製作

し、パリ・セーヌ河畔 締役社長)の光加工セ
に残る『アジール・フ ンター(周防工業団地)
ロッタン(浮かぶ避難 製作していたステン
所)』再生プロジェクト エク ス製の棧橋2基が8
トの一つとして、(株)ア 日、完成した。
ロイ(西田光作代表取 アジール・フロッタ

瀬戸内メモ

「アジール・フロッタン(浮かぶ避難所)」第
一次世界大戦後、パリに流入した難民を収容する
ため、ル・コルビュジエが石炭運搬船(コンクリ
ート製)を改修設計し、1929年、箱型船体に
柱と屋根、連続水平窓を増築した。自らが提唱し
た近代建築の5原則(ピロティ、屋上庭園、自由
な平面、水平連続窓、自由な立面)を採り入れ
た。後に日本を代表する建築家となる前川國男は
当時、ル・コルビュジエに師事しており、アジ
ール・フロッタン改修設計を担当した。



完成した棧橋

(ユーロコード)の素
材など諸問題があった
うえ、昨年2月、セー
ヌ川の増水で船が水没
してしまつた。
幸いにも公益財団法
人国際文化会館の助成
金(1億8000万
円)を受け、今年末に
は船の浮上工事が行わ
れる予定。

光加工センターはフ
ランス政府の承認を受
け、アロイの培った加
工技術も生かして工作
図を作成。日鉄ステン
レスと日本冶金工業の
ステンレスを使用し、
今年9月から製作開始
した。

7、8日の組み立て
時は同センターの従業
員が総出で作業に当つ
たという。関係者にお

披露目をしたあと、今
月末に出荷する予定。
なお、光加工センタ
ー事務所の玄関には、
アジール・フロッタン
の30分の1の模型が
展示されている。同プ
ロジェクトに賛同した
時建設が支援し、徳
山工業高等専門学校土
木建築工学科の学生チ
ームが制作した(平成
29年12月13日掲載)。
アロイの末廣克行常
務と中村浩紀・光加工
センター所長は「弊社
のミッションは、つな
ぐ。フランスと日本
をつなぐ、過去・現在
・未来をつなぐプロジ
ェクトに参加という素
晴らしい機会をいただ
いたことに感謝してい
ます」と話した。(浦)

10日大蔵池公園で初開催

光ヶ丘チャリティまつり

ひかりソフトパークの企業、施設、学校が協力

光ヶ丘を舞台に家族
で遊んで学べる初のチ
ャリティイベント『光
ヶ丘チャリティまつ
り』が10日(日)午前
10時5分午後3時、光ヶ
丘の大蔵池公園で開か
れる。雨天時はYIC
保育&ビジネス専門学
校のアリーナで実施。
光ヶ丘のひかりソフ
トパークには光総合病
院や福祉施設などが新
たに進出しているが、
大蔵池公園(芝生広
場)や大蔵池があるこ
とを知らない人はまだ
まだ多い。
そこで、独自にチャ
リティまつりを行って
きた、みちがみ病院が
中心となり、ソフトパ
ークの企業や施設、周
辺の学校が協力し、新
しいイベントを開くこ
とになった。
市内外から36ブ
スが出店し、手作り雑
貨やパン、野菜、もつ
鍋などを販売。子供向
けコーヒー教室▽子供
向けプログラミング教

日仏つながり再生プロジェクトのシンボル



室▼英語の買い物体験
▼ツリーポット(ハン
モックの一種)体験な
ども。
「楽しい時間が募金
につながり、あなたの
笑顔が誰かの力に変わ
る」と、各ブースの出
店料を台風19号災害義
援金として
寄付するほ
か、みちが
み病院ブ
スでは日母
おぎや一献
金基金への
募金と引き
換えに風船配布やお面
作りを行う。
駐車場はみちがみ病
院、グループホーム兼
清、浅江小学校グラウ
ンド。問い合わせは実
行委員会事務局(みち
がみ病院総務課 ☎72
・5376)へ。(通)

忘年会のご予約承ります

- ◆フグコース…… 8000円~1万円(税別)
 - ◆会席料理……… 4000円(税別)より ご予算に応じます
 - ◆各種鍋セット… 5000円(税別)
 - 【例】
 - 取/刺身/焼物
 - ちゃんこ鍋、寄せ鍋、鴨鍋、海鮮鍋
 - 鍋/フルーツ
- その他お気軽にご相談下さい

活魚料理 **こやま** 光市島田1丁目12-3
TEL0833・72・5678

ふくの美味しい季節となりました

大好評 ふく料理セット宅配

35センチ皿(3人前) 14,200円 (箱代・送料別) ※何人前でもできます
ご相談下さい

〈セット内容〉 ふく刺、ふくあら
ひれ酒用ひれ、こやま特製ボン酢
もみじおろし、ダイダイ、小ねぎ

こやま鮮魚店

光市島田1丁目12-32
TEL 0833・72・3957 (昼)
0833・72・5678 (夜)

※数に限りがありますので、お早めにご予約下さい